

# デジタルアーカイブによる新たな 価値創造

久世 均、久保田 若葉、望月 頌

# 1 はじめに

「**飛騨高山匠の技**」について地域と連携しデジタルアーカイブの開発を進め、現在約9万件の「**飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ**」としての構築を進めている。そこで、この「飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ」に新たな情報を追加し、「知的創造サイクル」を実現するための「**知識循環型デジタルアーカイブ**」への再構築と、それを有効的に活用するための教材、教育方法を開発し、**デジタルアーカイブによる新たな価値の創造**について実践しているので報告する。

## 2. 知的創造サイクルとデジタルアーカイブ

飛騨高山匠の技デジタルアーカイブは、2017年～2020年の文部科学省私立大学研究ブランディング事業に加え、**2022年度岐阜県私立大学地方創生推進事業**において、**収集管理された飛騨高山匠の技に関する地域資料9万点のデータ**で構成されている。

## 2. 知的創造サイクルとデジタルアーカイブ

The screenshot shows the website for the Digital Archive Project at Gakko Women's University. The header includes the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) Private University Branding Project logo and the university's name. The main navigation menu includes 'Current Status and Issue Recognition', 'Objectives', 'Project Content', 'Digital Archivist', 'Event Report', and 'Achievements'. The 'Project Content' section describes the project's goal of contributing to the local community through digital archiving research. The 'Notice' section lists various digital archive projects, including those for the Gifu City Cultural Heritage, Gifu Prefecture University, and various local cultural heritage sites. A search bar is located on the right side of the page.

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業 岐阜女子大学 文化情報研究センター デジタルアーカイブ研究所 お問い合わせ

文部科学省 私立大学研究ブランディング事業 岐阜女子大学

現状と課題認識 目的 計画の内容 デジタルアーキビスト イベント報告 実績

### 事業内容

本事業は、地域に根差し地域社会に貢献する大学として、本学独自で育んできたデジタルアーカイブ研究を活用し、地域資源のデジタルアーカイブ化とその展開によって、伝統文化産業の活性化などの地域課題の実践的な解決や新しい文化を創造できる人材育成を行い、地域の知の拠点となる大学を目指すものである。

### お知らせ

お知らせ

- イベント
- デジタルアーカイブ
- 岐阜市文化遺産デジタルアーカイブ
- 岐阜県私立大学地方創生推進事業
- 沖縄文化遺産デジタルアーカイブ
- 犬山市文化遺産デジタルアーカイブ
- 郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ
- 関市文化遺産デジタルアーカイブ
- 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ
- 左甚五郎遺産デジタルアーカイブ
- 大規模公開オンライン講座 (MOOC)
- 教育リソース (テキスト・教材・論文資料等)

特定非営利活動法人

↑文部科学省私立大学研究ブランディング事業岐阜女子大学  
<https://digitalarchiveproject.jp/>

## 2. 知的創造サイクルとデジタルアーカイブ

- ・ 飛騨高山匠の技に関する総合的な地域文化の創造を進めるデジタルアーカイブは、「**知的創造サイクル**」を目的とした総合的なデジタルアーカイブとしてとらえている。
- ・ 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを、「**知的創造サイクル**」に適用すると図1のような構成になる。

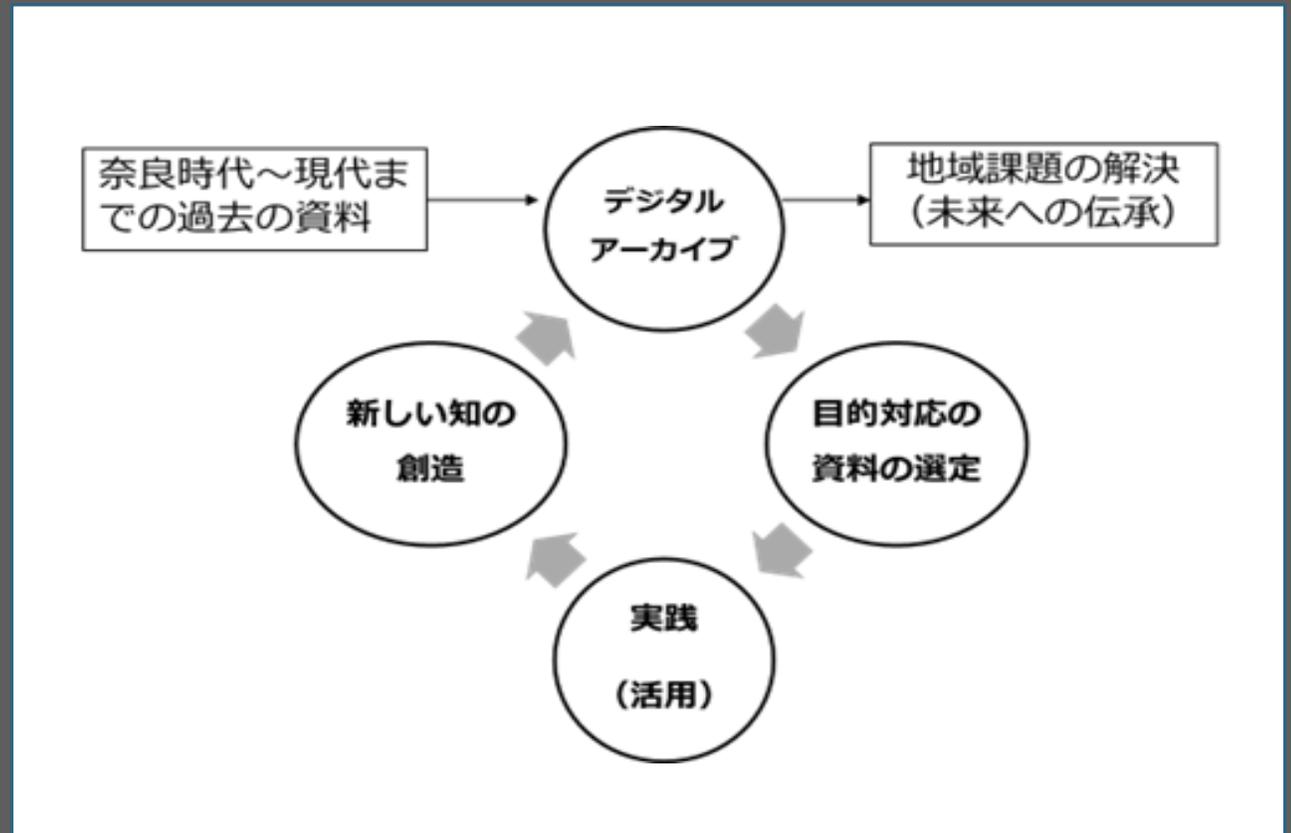


図1 知的創造サイクル

## 2. 知的創造サイクルとデジタルアーカイブ

代表的な飛騨匠の技である木工家具は、伝統的な産業として国内および海外でも高級家具として知られている。飛騨春慶塗や一位一刀彫りなどは、飛騨高山匠の技の伝統的工芸品とされているものの多くの課題がある。



そのため、

・ 匠の技を受け継ぐ後継者も不足、飛騨匠の技やところが次の世代に傳承することが困難となってきた。

## 2. 知的創造サイクルとデジタルアーカイブ

### 後継者不足の解消としての打開策

「知的創造サイクル」を具体的に飛騨高山匠の技デジタルアーカイブに運用し、知的創造サイクルとしての地域資源デジタルアーカイブの開発を試みた。



このことにより、その地域資源データのオープン化と共に友好的に活用し、新たな知を創造する本学独自の「知的創造サイクル」を生成し、この知的資源を生かして新たな価値を創造することが可能になる。

### 3. 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ

知識基盤社会においては、様々な正確で良質な知識の集合体の整備が重要であった。しかし、知識循環型社会の実現においては、様々な知的資源を集積した知識の集合体をどのように利活用するかが重要になる。様々な利用者が利用者が活用するためには、結果よりも**プロセス情報**が必要となる。



**様々な意思決定結果より、意思決定プロセスの方が重要**

# 3. 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ

そのために、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブでは、一位一刀彫りや飛騨春慶塗の制作過程などの様々なプロセスを中心にデジタルアーカイブをしている。

飛騨春慶 <http://digitalarchiveproject.jp/information/飛騨春慶/>



慶長年間(1596~1614)高山城下で、神社仏閣の造営工事に携わっていた大工棟梁、高橋善左衛門が仕事中に、たまたま打ち削った材の断面の美しさに心を打たれ、その板を使って風情な盆を作り、金森可重(金森宗和)に献上した。重近はその木目に感動し、御用塗師の成田三右衛門に木目の美しさを生かして漆を塗るよう命じた。三右衛門は業地を生かした透塗で、その盆を造り上げた。

成田三右衛門義賢(晴正)は京都で塗師をしていたが、お抱え塗師として飛騨に入国して春慶塗を考案し、その子成田三右衛門正利(三休)もお抱え塗師となり春慶塗の改良に貢献した。飛騨が幕府になっても飛騨春慶塗は地場産業として存続する。

飛騨春慶塗という独特の塗師が生まれ育ったのは、飛騨が良材の産地であった背景と、伝統的に自然の樹木の美しさを知りつくし、木の魅力を引き出す木地師の優れた技があったからである。

春慶塗は、原料漆に透明度の高い日本産の漆を使い、精製すると共に花油などを混合することで光沢と透明度をより一層良くする。この透明度の高い漆(すき)が下地の裏層を美しく見せ、向を転ぐことによりその彩りを変化させながら、透明度をさらに増していく。木地は板物と、輪廻(くる)による地物(ひきもの)に分けられるが、飛騨春慶塗は板物の加工技術に特徴が見られ、「角物」と「曲物」がある。木目の美しさを醸したす木地師と、木目の美しさを引き出す塗師の二者一体の共同芸術で成り立っている。

← 飛騨春慶塗

<https://digitalarchiveproject.jp/information/%e9%a3%9b%e9%a8%a8%e6%98%a5%e6%85%b6/>

一位一刀彫り →

<https://digitalarchiveproject.jp/information/%e4%b8%80%e4%bd%8d%e4%b8%80%e5%88%80%e5%bd%ab/>

一位一刀彫り <http://digitalarchiveproject.jp/information/一位一刀彫/>



木の細工に匠の技を極めたのは江戸在住の平田亮朝である。亮朝は文化6年(1809)に高山で生まれ、若くして江戸の椀付彫刻の大家といわれた山口友頼(寛政13年江戸生まれ、3代続いた)の門に入り、江戸で椀付彫刻の大家として大成した。浅草橋付近に住み、江戸で有名な日本橋通浅草町(小間物問屋)日野屋の大事なお抱え椀付彫師として活躍。しかし、38歳若くしてその生涯を終えている。亮朝が江戸にいたとき、高山から江黒亮軒(すけはる)、中村亮秀(すけよし)、松田亮長(すけなが)が弟子入りし、共に高山に傳って身を立たてた。特に亮長は若い頃から彫物にすべり、写実的な動物の彫刻を最も得意とした。材料も楡(ひのき)、なつめ、樺、竹などを使っていたが、のち一位材を用いて簡潔な彫像を残す一刀彫の様式を完成させた。

旅好きであった亮長は、生涯全国各地を巡って見聞を深めて自己研鑽に努め、1年の半分を高山で過ごすことは希であったという。旅先は絵日記等によって知ることができ、各地の名勝地を遊歴し、彫工の名家を訪ね、古寺社の彫刻を研究するなどして心技を磨いた。

旅の途中で奈良人形を見て、その響色が非常に深く、刀痕を塗り込めし、技術の良し悪しがわからないので、自ら意匠を練って刀法を考え、彩色を施さずに飛騨の名木一位の天然の美しさを生かした簡潔な彫像を残す一刀彫の様式を考案したとされている。

亮長の作品には写実的なものと、今日の一刀彫りに見られる極限まで彫刻化された面々で構成された。単純ではあるが、良くその物の特徴をつかみ、その良さを表現する。亮朝は明治4年(1871)11月14日、下山の自宅で72歳の生涯を終った。

### 3. 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ

このように、デジタルアーカイブする対象については、知識循環型社会では知識基盤社会とは異なり、利活用することにより、**新たな知識を創造する知識循環型社会に対応した新たなデジタルアーカイブを開発する必要がある。**

## 4. デジタルサイネージへの展開

飛騨高山の匠の技デジタルアーカイブでは、約9万点の情報をデータベースにて保管



この地域資源デジタルアーカイブを交通・観光に利活用にするために、デジタルサイネージへの展開を考えた。

## 4. デジタルサイネージへの展開

「デジタルサイネージ」とは一般に「サイネージ」と呼ばれることもあるが「電子看板」、「電子公告」などとも呼ばれている。主な用途としては、紙に代わる情報伝達媒体として利用されている。例えば、紙のポスターの代わりに画像や動画などデジタルコンテンツとディスプレイを組み合わせて情報を発信している。



↑引用元  
[https://www.irasutoya.com/2018/01/blog-post\\_12.html](https://www.irasutoya.com/2018/01/blog-post_12.html)

# 4. デジタルサイネージへの展開

今回、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブした約9万点の情報から3本の動画コンテンツ(日本語版・英語版)を作成し、現在、**中部国際空港の国内線(2019年設置)並びに国際線(2022年設置)**で展示をしている。



←中部国際空港(国際線)に設置しているデジタルサイネージ

→デジタルサイネージ設置を知らせるポスター



## 4. デジタルサイネージへの展開

このようなデジタルサイネージを地域文化の広報のために活用することは地域活性化並びに伝統文化の発展としても効果があり、地域資源デジタルアーカイブの新しい利活用として可能性がある。ここで、成果物の還元として、また、地域課題の解決として効果が期待できるのが...



# デジタルサイネージ

## 5. 飛騨高山匠の技ガイドブックの作成

飛騨高山匠の技デジタルアーカイブのガイドブックとして、**紙メディア**と**Web公開型デジタルアーカイブ**と**QRコード**で連携した冊子を作成している。この冊子は、観光や教育用として活用している。



図2 飛騨高山匠の技のガイドブック

## 5. 飛騨高山匠の技のガイドブックの作成

特にこの飛騨高山匠の技デジタルアーカイブでは、**左甚五郎**を取り上げている。

左甚五郎は、江戸時代初期に活躍したとされる伝説的な彫刻職人。講談や浪曲、落語、松竹新喜劇において、左甚五郎と伝えられる作品も全国になる。

## 5. 飛騨高山匠の技ガイドブックの作成

性の「左」の由来には諸説あり、江戸時代、腕利きの大工の代表として「大和大工に飛騨匠」と称されている。また、「飛騨の甚五郎」が訛っているものだという説もある。そこで...



飛騨高山匠の技というブランドに新たに左甚五郎というサブブランドを位置づけ、さらに飛騨高山匠の技の総合的なブランド力を高めることを提案する。

## 6.地域課題探求型学習への利活用

この地域資源デジタルアーカイブをさらに友好的に活用し、新たな知を創造する本学独自の「知的創造サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質画を探り実践的な解決方法を導き出すことを高大連携により**地域課題探求型学習への利活用**を行った。

## 6.地域課題探求型学習への利活用

この活動の中で、高校生により収集・記録された地域資源や資料は、地域資源デジタルアーカイブに追加して蓄積され、地域資源デジタルアーカイブが様々な高大連携の実践により随時増殖するというデジタルアーカイブにおける...



「**知の創造サイクル**」が実現できた。

## 7.おわりに

本学では、デジタルアーカイブを有効的に活用し新たな知を創造する本学独自の「知的創造サイクル」を生かして地域課題を探求し、深化させ課題の本質を探り実践的な解決方法を導き出す人材を大学に変革することを目指している。

今後も継続して地域の課題を抽出することをはじめ、大学の知識を集約して地域資源のデジタルアーカイブの構築し、これらのデジタルアーカイブを有効的に活用し、地域課題の実践的な課題解決の方法を導き出す人材養成のための地域資源のデジタルアーカイブを構築する予定である。

# 参考文献

(1)久世均：知識循環型社会とデジタルアーカイブ～デジタルアーカイブを活用して地域課題の解決を～，地域開発，2018.春 Vol.625

(2)久世均：地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための実践的研究【1】～知的創造サイクルによる地域課題の解決手法の開発～，デジタルアーカイブ研究報告，2019.Vol.2，2020.3.31 他